

職制としては御側医、御側医格、御医師があり席次は小姓の次ぎ、世襲士に準じて給禄を受ける(松江藩格式と職制・中原健次)。この下に町扶持医、町目見医があり、藩医以外にこれらの民間の町医者がいたことになるが、この中から藩の町扶持医に採用され、漸次累進し藩医となつて登用された者もあつた。この時代の藩医の総数は39だが後代になるとずっと増え第12代斉貴の時に79、第13代定安の時には98になつてゐる。(出雲国における医学・梶谷光弘)。さて京都から招かれた畑立庵だが、直ちに登城して家老朝日丹波より容態を聞き翌日より治療に掛かるよう頼まれた。(以下温故録)

「翌日より畑氏にお頼み遊ばされ候申し談ずべき旨に候」

「……翌日、畑氏に依頼され、種々相談事があつた……」

「不味伝」には、「公の病状につきて診断せる者ものか筆者」を見るに頗る詳細なる診断書が載つてゐる。

「恭承 雲州太守、松江候殿命、伏奉珍貴體不興之狀、初憂麻疹瘰癧(略)……雲州太守松江候よりの殿命を承り、恭しく申し上げる。麻疹にお掛かりになつて御平癒後のお体を御診察申し上げ(略)……(かかる療法をお試しになれば、終いには万全の状態を保たれる事でしょう)……」

安永五丙申夏七日
皇都医官法眼

畑 柳庵 惟 知謹識
「……安永5(1776)年陰曆6月7日 京都医師法源 畑 柳庵謹んでこれを記す……」

と凡そ400字程の漢文で診察所見及び処方方の一端を述べるが、漢文や漢方、医学等には全く知識乏しき筆者、畏れ多き事ではあるが蠅螂之斧を奮つて内容の概略を以下に紹介して見るに

「腰脊腎脈之間 始見微腫(以下略)……腰や背中、腎臓等が若干腫れている……尿が出難い状況である……消化器を痛め臓腑機能が衰えて脚気の症がある……恐らく毒が心臓周辺をふさぎ、故に生気が下降せず尿水も不通となる……毒気を先ず去らせ気を下降させ尿水が通ずれば消化器に栄養を与え体力回復を図る……」

さらに「眞武」(澤瀉「鬼絲」(破故紙)の漢方薬名が出て処方述べる。

「……眞武を進め、澤瀉を加え、鬼絲、破故紙等を処方すべし……」

右記の漢方薬は、概ね胃腸疾患、消化不良等々に薬効があるといわれるものだ。

この診断書を素人ながら所見するに「痔疾」に對する処方無く、どちらかと言えば「脚気」等消化器官系の不具合を指摘しその処方が挙がつてゐるように見える。

さてこの様に対処したのか再び「温故録」の記

事に戻ると、6月7日 「此度 御容躰に付き 絲瓜水御用に候間 取候而差出可旨被仰渡候 尤新き徳利等に入 箱に入候而 三ノ御丸持参可仕旨(略)……此度の御容躰については絲瓜水(チマ水)をお使いになることとなつたので、取つて提出するよう仰せ渡された。そして新しい徳利等に入れ、箱に入れ城内三の丸へ持参するよ……」

その結果、「絲瓜水」追々相集 當座之御用は相調候旨に付而 銘々所持之面々先差出普及旨に候へチマ水は次第に集まり、當時の御用には充分間に合つたので、各自所持しているものは提出しなくてもよい……

松江藩士達の菜園には 普段から絲瓜が栽培してあつたのか、それとも年貢地の農家等に頼んで充當したものか、立ち所に十分すぎるへチマ水が集まつたのは面白いが、眞武、澤瀉、鬼絲、破故紙等の漢方薬を処方しながら 何故へチマ水になつたのだらう。古今の文献から「大和本草」(貝原益軒「本草綱目啓蒙」(小野蘭山「普救類方」(林良適「丹羽正伯の文中に「絲瓜の機能についての解説を少しばかり読んで見ると、「化粧水としての用法」「除痰の用法」「焼粉として痔、黄疽、腰痛対処療法」等があつたもの「へチマ水」そのものを「痔」に使う療法は見つからなかつた。「牧野和漢草大図鑑(平成14・北隆館

には、「鎮咳、利尿には生の果實を輪切りにして、そのまま煮てできた汁を服用すると良い」とある。松江藩士が集めたへチマ水がどの様に処方されて不味公は服用になつたものやら興味を牽くがこれ以上門外漢の容喙は差し控えよう。

かくて不味・治郷公は9月23日床払い、10月22日発松、11月13日着東と相成つた(松平不味伝) (出雲国における医学・梶谷光弘に「松平治郷の年譜があるがそれに拠れば「6月5日浮腫に罹り京都から畑柳安がやつてくる」となつていてどうやら不味公の病は筆者も考えるように「御痔疾」ではなく浮腫だつたようだ。浮腫とは「身体を構成する組織の水分が異常に増えた状態を言ひ、心疾患、腎疾患、肝疾患、栄養障害、内分泌疾患を原因の一つとする」(日本呼吸器学会HP)。

従つて診断書は正しかつた訳で温故録は何を以て「御痔疾」としたのか知らない。しかし年譜によると、不味公の痔は安永8(1779)年が最初で、その後8回も痔疾で苦しみ、終いには享和元(1801)年桂川甫周により手術を受け快癒している一方、この後13回も浮腫の記事が出ており痔疾もだが浮腫にも苦しんだ様子である。

「玉湯何でも大辞典」は旧島根県史9を引用して「意宇郡玉造温泉は不味湯治の為さいさい滞留せし所にして云々」と述

べるが同書中の藩主人湯記録に拠れば不味公は8代藩主斉恒に序で入湯回数が多いのはこの辺りに関連があるのだから。実は当初、不味公の「痔疾」に「絲瓜」がどんな具合に効能があるものか、「医方大全」(明代・熊宗立)、「医心方」(平安時代・丹羽康頼)等著名な漢方医学書或いはその他の本草学所に烏澁がましくも「応眼を通してみたが、上で述べたように結局「痔疾」では無かつたと判断するに至つた。但し、如何せん無知蒙昧漢にはこれ以上は何い知れず、本編はここで終わりとし別稿で「不味公の痔をもう少し当たつて見たいと思つてゐる。

梶谷光弘氏の種々の研究書を随分参考にさせて頂いた。また種々ご指導頂いた方々へ感謝したい。

「温故録」は松江藩士望月圓次の手になるもので、冒頭の序文によると、直政公以来根治にまで凡そ140数年、その間の政令を整理編集した物が無く、自分がその事に当たらんことを思い立ち、政令に加えて、他の判例幕令、或いは藩士達への覚等を纏めるに至り、完全とは行かぬが完成したのでこれを「温故録」と名付けたとし、天明4(1778)年甲辰2月20日付付けたとあり、末尾に「古の掟をここに書き置てもかかるも猶 後の世の為」と最後に一句を付けて置く。内容は日記風となつており、上記法令、覚等の他に松江城下の窃

盗事件とか、密漁事件とか、火事とか所謂市井の小事件が随所に取り上げられてあり、誠に興味ある記録である。現在、「望月家文書」として島根大学付属図書館の桑原文庫中に全7巻が残されており、同大学付属図書館デジタルアーカイブズで見ることが可能である。

烈士録によると、作者の望月圓次は五代目と思われ、安永9(1780)年「父遺跡貳百五十石を下さる、幼少につき御国勝手に御留守居番組へ組み入れ」とあるのが同人の始めての記述で、幼少の上御国(出雲松江)に身近な親類も無いのでこれまでの縁高のまま、暫く江戸表に置かれた旨を願つて許されたい旨を願つて寛政元(1789)年「御廣間方」仰せつけられ江戸定府となつてゐる。温故録を書いた天明4(1784)年が何歳の時なのか判断が出来かねるが、この記述からは極めて若年時江戸定府となる前の数年間に書いたものと考えざるを得ない。

寛政6(1794)年には「三助様御附」仰せつけられてゐる。「三助様」は不味弟の衍親(フブチ力)で幼名駒次郎、後の俳号雪川である。衍親が成人してからは衍親「御側役」となり、衍親没後ずっと後年、文化10(1813)年には「格式中老御仕置添役御近習頭御介添兼勤」仰せつけられてゐる。

広島県支部通信(特集号)より転載

令和3年秋の叙勲
「旭日双光章」受章
千葉県支部 阿部治夫氏
(昭和46年法学部卒)

阿部氏は千葉県四街道市在住で、市議会議員24年間、地方自治の功績によつて受章されました。

千葉県支部では初代支部長を務められ、その後は支部顧問として、支部活動に貢献されています。

阿部氏の益々のご活躍を祈念しております。

紙面をお借りして通教部校友会の皆様にご報告申し上げます。

(文責：千葉県支部 高垣むつ子)

日本大学創立130周年記念事業募金への感謝状を授与されました

感謝状

日本大学

感謝状

日本大学

謹啓 時下ますます御清祥のこととお喜び申し 申し上げます。さてこのたび貴会から日本大学創立百周年記念事業募金に付して多大の御芳志と賜りました。ここに貴会に付し、深く御礼申し 上げるとともに、感謝の意を表し、感謝状を贈り いたします。

日本大学は今後も「日本教育力のある大学」と目指し、研鑽努力し、来る所存を、いよいよの変わらぬ御支援御協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和四年十月一日
白

日本大学通信教育部校友会 副会長 林 真理子
日本大学学長 酒井健夫
日本大学通信教育部校友会 日本大学通信教育部校友会 副会長 関東フロッグ長

日本大学校友会 常任委員
日本大学通信教育部校友会 副会長・財務部長
藤サアンメニイ代表取締役

吉澤幸夫
〒114-0002 東京都北区王子三十一一九七
TEL 〇三三九二七三三二

山本良吉
〒290-0011 千葉県市原市能満一三〇六三
勤務先 市原田園ホーム(株)
TEL 〇四三六二五一一三三
FAX 〇四三六二四二二五五

師田 袈裟茂
〒225-0005 横浜市青葉区在子田二一六二二
TEL 〇四五九〇三二八二二
FAX 〇四五九〇三二八二二

鎌子 健
〒340-0156 埼玉県幸手市南二一九一七
TEL 〇四八〇四三三〇九四六
携帯 〇九〇四二二一六三三〇

本田 守
〒779-3105 徳島県徳島市国府町東高輪二〇八二
TEL 〇八八一六四二四六四八
携帯 〇九〇一五七〇一七三五

金子栄輔
〒179-0074 東京都練馬区春日町三十九一
TEL 〇八〇一五〇三二一四六七

日本大学通信教育部校友会 副会長・広報部長
神奈川支部 会員

日本大学通信教育部校友会 副会長・組織部長
日本大学通信教育部校友会 埼玉支部 顧問

日本大学通信教育部校友会 副会長
徳島市文化協会 会長
短歌結社「徳島短歌」顧問
「徳島老友新聞」歌壇選者
本田まもる歌集「大河の風」ネット販売中

日本大学通信教育部校友会 副会長
日本大学通信教育部校友会 関東フロッグ長
日本大学通信教育部校友会 東京都支部支部長